



学校だより



10月号

令和6年9月30日
横浜市立善部小学校
校長 朝川健太郎

「非認知能力」の育成

校長 朝川 健太郎

「暑さ寒さも彼岸まで」と言いますが、先日の秋彼岸を境に猛暑も少し収まりつつあり、朝夕は少し涼しく、日中も過ごしやすくなってきました。夏休み明けには暑さのためほとんど外で遊ぶことができなかつた中休みにも、子どもたちの遊ぶ声が戻ってきました。室内での活動がほとんどだったZSFの練習も校庭から応援団やリレー選手の声が聞こえてくるようになり、学年練習も外で力いっぱい行っています。10月19日(土)のZSF本番に向けて、子どもたちの意識も高まってきているようです。当日は、子どもたちの練習の成果をぜひご覧ください。



さて、運動会の活動を通して子どもたちに身に付けさせたい力として、「最後まで粘り強く取り組む力」や「自他のよさや違いを認め合い協力して取り組む力」などがあります。これらは「非認知能力」と呼ばれ、学力のように数値で表すことができない力とされています。非認知能力には、「挑戦しようとする」「最後まで頑張る」などの自分自身に関する力と「人の意見を尊重する」「相手の立場になって考える」などの他者と関わる力があります。認知能力と同様に非認知能力も教育活動全体で育てているところですが、善部小学校では特に、全校遠足などのスマイル班活動やZSFに向けての活動、宿泊体験学習等において非認知能力を高めることができると考えています。今年度4月に6年生が実施した「全国学力・学習状況調査」によると、

「将来の夢や目標を持っていますか」(92.4%)

「人が困っているときには進んで助けていますか」(96.2%)

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」(97.4%)

「わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」(87.3%)

などの項目において「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた本校児童の割合が全国平均よりも高い数値を示していました。この結果は、上記の活動を充実させることによって非認知能力が育成され、得られた結果かもしれません。今後も、教育活動全体を通して「認知能力」「非認知能力」とともに育てていきたいと考えています。ご協力よろしく申し上げます。